



成田中だより

令和6年2月2日
 成田市立成田中学校
 TEL 0476-22-0304
 生徒数 504名
 文責 濱谷 昌人

《令和5年度学校教育目標》『 夢 へ 』

「誰もが夢を持ち、明日も行きたいと思える学校」を生徒とともに目指します！

おにたのぼうし・・・・・・・・



◎この3年間のまとめとして3年生は今、英語によるディベートに挑戦しています！素晴らしいです！！

「行く1月、逃げる2月、去る3月」とはよく言ったものです。新年が始まったと思ったら、もう2月に入っています。そして、明日の3日は「節分」、そして、明後日の4日は「立春」です。暦の上では冬から春に変わろうという時ですが、昨日の春のような温かさが嘘のように、今日からまた真冬に戻ったような寒さです。暫くは寒い日が続くという予報です。急増しているインフルエンザや今なお心配なコロナウイルスへの感染予防と共に、風邪にも十分気をつけながらこの季節を乗り切っていきましょう。

さて、成中生の皆さんは、明日の「節分」の日には豆まきをしますでしょうか？中学生の皆さんからは、「もう恥ずかしくて・・・・・・・・」という声が聞こえてきそうですが、それでも、素直な成中生には、元気よくまいてほしいなと思ってしまいます。中学生になっても、豆まきを純粋な気持ちでできる心が素敵だと思いますか。きっと幸せな1年間になりますよ。地元成田山新勝寺では、明日、恒例の節分会（せつぶんえ）の豆まきが行われるそうですね。大本堂正面に特設舞台を設け、私の大好きなNHK大河ドラマの出演者や大相撲力士ら著名人の方々が参加し、福を呼びこむ豆をまく行事です。例年、テレビニュースにも流れてくる有名な行事ですが、地元の皆さんの中には、足を運ぶ人もいるのでしょうかね。成田山新勝寺では、本尊不動明王様の慈悲で鬼すら改心するとのいわれから「鬼は外」は言わず「福は内」とのみ繰り返す掛け声で豆をまくのだそうです。私も、幸せな1年を願いながら、「福は～内！」とのみ、元気よく豆をまこうと思っています。

ところで、皆さんは、『おにたのぼうし』というお話を知っていますか？今の3年生が1年生の時にこの『成田中だより』に書いた内容をもう一度書かせてください。

もう36年も前のことになってしまいますが、私は、小学校の教壇で、産休代替の教員として、小学校3年生のクラスを受け持っていました。その時の国語の時間に、この『おにたのぼうし』という心温まる物語を取り扱ったのです。ちょうど今ぐらいの季節に、子ども達と一緒に、この物語を勉強した記憶が残っています。優しくて気のいい小さな黒鬼の子ども『おにた』の話です。

節分の夜、豆まきが始めると、それまで住んでいた物置小屋の天井裏から出て行かざるを得なくなってしまうおにた・……。角を隠すために、古い麦わら帽子をかぶり、雪の降る中、裸足で外へと出ていきます。そして、ようやく見つけたトタン屋根の家に入り込むと、女の子が何も食べずに、病気の母親を看病しているではありませんか。それでも、母親を心配させまいと、もらった赤ごはんとうぐいす豆をいっぱい食べたおにたが母親に嘘をつく女の子・……。台所には米粒一つないことを知ったおにたは、再び雪の中へと出ていき、あったかい赤ごはんとうぐいす豆を用意し、女の子に差し出します。もちろん、女の子は大喜びです。しかし、おにたが鬼の子だということを知らない女の子は、「あたしも、豆まきしたいなあ。鬼が来れば、お母さんの病気が悪くなるわ」と言い出すのです。ショックを受けたおにたは、悲しそうに身震いして、「鬼だっているいろいろなのに。鬼だって・……。」と言うと、氷が溶けるように消えてしまうのです・……。麦わら帽子を残して。そして、その麦わら帽子の下からは、あったかい黒い豆が出てきます。どこまでも優しいおにたが、自分自身を豆に変えて女の子にプレゼントしたのではないのでしょうか。物語は、おにたを神様だと信じた女の子が、その黒い豆をまくシーンで終わっています。女の子にとっては、鬼が悪者のまま終わってしまうところに、たまらなく切なさを感じてしまう物語です。

この物語を読んで、私のクラスの子ども達はみんな、おにたが大好きになりました。どこまでも優しく、悲しいくらいにお人好しで・……。おにたの「鬼だっているいろいろなのに。鬼だって・……。」というセリフが、純粋な子ども達の心に強く響いたのだと思います。鬼というイメージだけで、おにたを見ちゃいけないということを、私のクラスの子ども達は、確かに感じ取ってくれたのだと思います。

あの子達も、もう45歳になっています。世の中の現実を目の当たりにしながらも、確かな心で、相手の良さを見抜ける大人に成長してくれていることを願うばかりです。そして、今、おにたの苦しみを背負っている子はいやしないか・……。我々も、教師として、人間として、確かな心で、一人ひとりを見つめていきたいものです。今年も、節分がやってきます・……。

みんなちがって、みんないい！ ～差別や偏見のない社会を目指して～



『おにたのぼうし』について、私の忘れられない思い出を書いてみましたが、実は、世の中の差別や偏見について皆さんに考えてもらいたいという想いもあり、この『おにたのぼうし』を取り上げてみたのです。成中生の皆さんの心に、そんな気持ちが響いていくれていると嬉しいです。

皆さんもきっと、金子みすゞさんという大正時代の童謡詩人の名前を聞いたことがあるのではないのでしょうか。山口県に生まれ育ち、わずか26年の短い生涯で512編の詩を残した方です。そして、彼女の代表作でもある『私と小鳥と鈴と』という作品の中の「鈴と、小鳥と、それから私、みんなちがって、みんないい」という一節は、皆さんもよく知っているのではないのでしょうか。2学期に開催した人権教室で講師を務めてくださった元成田小学校校長のF先生も、この一節を取り上げていましたね。この詩を読んで、優しい気持ちになれた人も多いと思います。この世にあるものは、誰一人、何一つ、同じものはないけれど、みんなそれぞれに素

敵な持ち味を持っていて、だからこそみんな素晴らしいんだというメッセージが伝わってきます。相手の全てを丸ごと認めようとする広い心と優しさが溢れているように感じられる詩です。世の中の誰もがこんな気持ちになれば、人が相手を傷つけることはないでしょうし、いじめも起こらないのかなと思ってしまいます。

今、「多様性」という言葉をよく耳にします。始業式でも話をさせてもらいました。人種、民族、国籍、性別、性自認、性的指向、年齢、そして、障害の有無など、みんなそれぞれに異なるということです。そして、互いに、それぞれの違いを受け入れる、認め合うということが、誰もが幸せな世の中にしていくためには必要になってくるはずです。多数派が、少数派を非難したり、自分と考えの違う人を差別したりする世の中にしたためにも、金子みすゞさんの「みんなちがって、みんないい」という気持ちが、とても大切になってくると思います。自分にとっての当たり前が、相手にとっても当たり前だとは限りません。相手の個性や持ち味を認識し、互いに違いを認め合うことが多様性を受け入れるということに繋がっていくのではないのでしょうか。そして、そのことが、差別や偏見のない社会に近づいていくと思っています。「みんなちがって、みんないい」……いつも忘れずにいたいです。そんな心で、「福は～内！」だけの豆まきを試してみたくなりました。

受験は団体戦！ ～この時期とかけがえのない仲間達と共に乗り越えたい～



◎受験前、当たり前長距離走に本気で挑む3年生！ ◎受験でみんな揃わなくても歌声活動を頑張る3年生！

3年生の県内私立高校の前後期試験も終了し、第一希望校に合格した3年生の皆さんは、本当におめでとうございます。公立高校第一希望の皆さんもほんの少しだけホッとしているかもしれませんね。県内私立高校受験日が続いた1月の1週間は、3年生が揃わない日が続き、廊下を歩いていて少し寂しい気持ちになりました。それでも、受験がない生徒は登校し、少ない人数でも予餞会や卒業式に向け歌声活動を頑張り、人手が足りない清掃活動や給食準備は、受験でいない仲間の分も登校しているメンバーで助け合い、そして、授業や自習にも集中して取り組んでいました。受験前日でも、当たり前のように長距離走の授業に全力で臨む3年生の姿を見ながら、「きっと神様も、健気に学校生活を頑張るこの子達のことを応援してくれるだろう」と思ってしまいました。それぞれが、受験真っ只中で大変な中でも、互いに協力し合いながら学校生活を送る姿は、まるでお互いにエールを送り合っているような温かい光景です。だからこそ、「受験は団体戦」とも言われるのでしょう。中には公立高校1本勝負の生徒もいますが、押さえの学校を持たないプレッシャーの中で本当によく頑張っています。歌声や清掃活動、そして、委員会や係活動などを仲間達と一緒に真面目に取り組む姿は、当たり前のこととはいえ素晴らしいと感じています。学校生活を大切にしながら、クラスや学年の仲間達と共に受験を乗り越えようとしている3年生の皆さんを心の底から応援しています。私立高校の受験期間中、少ない人数でも学校生活を仲間と共に一生懸命送った後下校していく3年生の皆さんの表情はとても清々しく感じました。来週には公立高校の出願が始まり、気の抜けない日が続きますが、健気に頑張る3年生の皆さんが、笑顔で春を迎えられることを願っています。もう一踏ん張りです。この大変な時期を、学校生活を大切にしながら、かけがえのない仲間達と共に乗り越えていきましょう。

新春部活動大会速報 ～剣道部伊藤弥優さんが、千葉県でベスト8！～



令和6年新春開始と共に各種目の大会が続いています。寒い季節の中、どの部もよく頑張っています。

まずは、剣道部です。1/21(日)に開催された以武会友杯千葉県中学校剣道大会という県レベルの大会での個人戦で、強豪校に臆することなく勝ち進んだI.M.さん(2年)が、見事にベスト8入りを果たしました。千葉県でのベスト8は大変立派です。最後のシーズンに向け大きな自信になったと思います。そして、他のメンバーにとってもIさんの活躍が良い刺激になったのではないのでしょうか。また、1/28(日)に開催された徳心杯1年生ブロック大会では、M.K.さん(1年)が得意の「胴」を次から次へと決め、ベ

スト8に入り敢闘賞を獲得しました。準々決勝で敗れたMさんはとても悔しそうでしたが、この1年間の練習の成果を発揮できた大会となったと思います。次の印旛都市1年生大会でも頑張ってください。

バスケットボール部は、1/27(土)から始まった桜井杯バスケットボール大会(郡大会)に挑みました。男女とも1回戦を快勝し2回戦に挑みましたが、残念ながら2回戦敗退となりました。それでも、男子G.R.キャプテン(2年)と女子O.Y.キャプテン(2年)を中心に、新人戦後熱心に練習に打ち込んできた成果は出せていたと思います。攻めのスピードやシュート力が上がっているように感じました。一步一步前進しているところです。

バレーボール部は、1/27(土)、郡の1年生大会に挑みました。本校のバレー部1年生は3人なので、下総みどり学園との合同チームでの出場となりました。合同チームとしては、十分な練習量はこなせていませんでしたが、それでも声を掛け合いながら見事に1回戦を突破することができました。2年生も応援に駆けつけ、応援を背にしながら3人ともよく頑張りました。2回戦敗退となりましたが、貴重なデビュー戦となりました。

サッカー部は、1/27(土)から新人ブロック大会に臨んでいます。リーグ戦形式の大会なので、まだまだ試合は続きますが、最初の2試合を1勝1分で勝ち点を積み重ね好スタートを切っています。ゴールキーパーのM.H.さん(2年)を中心にディフェンス陣がよく守り、攻撃の要のキャプテンF.H.さん(2年)、I.M.さん(2年)、そして、O.K.さん(2年)がこの2試合で合計4ゴールを上げ攻撃力も増しています。リーグ戦の残りの試合も期待しましょう。

最後に、ソフトテニス部のS.M.(2年)・I.S.(2年)ペアが成田市選抜チームの一員として、成田カップに出場しました。この大会は、県内外の強豪校を集め開催される非常にレベルの高い大会です。残念ながら、成田選抜チームは予選リーグで敗退したものの、強豪校のペアに臆することなくしっかりと打ち合い、見応えのあるゲームとなりました。2人にとっては大きな自信になったと思います。この貴重な経験を、是非とも新シーズンに生かしてください。

